

1 学校教育目標	
教育目標……………	校訓「明日へ」の理念のもと、教育目標である「自らに誇りを 友に誠を 人生に夢を」を柱として、活力ある学校づくりを推進し、主体的に自己実現を図る生徒の育成をめざす。
中・長期目標……………	定時制の特色を生かしたキャリア教育を推進し、学力の向上や進路の実現を図る。

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)	
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自己肯定感をもてる授業を推進し、校内や校外の公開授業を活用するなどして教員の指導力の一層の向上に取り組むことが必要である。 ・怠学傾向や心の問題などに対応するため、教職員・SC・家庭及び関係機関との連携を一層強めていくことが必要である。 ・就職することの意義と大切さを悟らせるとともに、「総合的な学習の時間」における資格取得の向上への取組など、進路支援の充実に努めることが必要である。 	

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題	
<ul style="list-style-type: none"> (1) ホームルーム、学校行事、部活動などを通して人間関係力を構築させ、挨拶や掃除など当たり前のことが当たり前にできる生徒の育成をめざす。 (2) 自己理解に基づき早期に高い進路目標を設定させ、自学自習の習慣化による学力アップを図り、生徒一人ひとりの夢の実現を達成させる。 (3) 卒業生、保護者、地域の人々、異校種の学校と連携した教育活動を展開する。 (4) 本校の教育活動や生徒の様子を地域・保護者へ積極的に発信し、本校の魅力をアピールする。 (5) 教職員が日々健康の増進をめざすとともに、自ら絶えず自己研鑽を積むことによって、授業力、さらには人間性を高める。 	

4 自己評価					5 学校関係者評価	
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等 評価
学習指導	○生徒が自己肯定感をもてるような授業の工夫と改善	・理解しやすい授業、わかる授業、参加している実感がもてる授業の工夫を進める。	生徒への授業アンケートを実施した結果、「あてはまる」と「大体あてはまる」の合計が 4:80%以上であった。 3:60%以上であった。 2:40%以上であった。 1:40%未満であった。	4	・今年度は84%であり、初めて80%を上回る数字を得ることができた。能力差のある生徒に対して理解しやすい授業、わかる授業を実施するために日々試行錯誤し、教材研究を重ねた結果だと考える。来年度以降も達成感が得られ、更には自己肯定感をもてる授業が行えるように日々の研鑽を続けていきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・指導の大変さは十分理解できる。 ・授業や学校生活でドロップアウトさせないような努力をしてほしい。
	○教員相互の授業研究・公開授業の推進	・本校、他校、小中学校などの公開授業に参加し、授業研究を進める。	4:3回授業参観し、授業研究に努めた。 3:2回授業参観し、授業研究に努めた。 2:1回授業参観し、授業研究に努めた。 1:授業参観することはなかった。	3	・校内における教員相互の授業参観は昨年度と同様前向きに実施され、指導力の向上に役立てることができた。また他の定時制高校の公開授業に参加し情報交換を行うことで、定時制の実情に応じた指導法を考えるよききっかけとなった。	
生徒指導	○怠学傾向の見られる生徒への状況改善へ向け効果的な対策の推進	・怠学傾向の見られる生徒について欠席・欠課・遅刻等の統計を活かしながら教務とも連携し指導を徹底させるとともに、家庭との協力についても理解を得る。	4:統計の分析を各学期におこない、指導の徹底が図られた。 3:統計の分析を前・後期の2回実施し、指導の徹底がほぼ図られた。 2:統計の分析を年1回実施し、指導に生かされた。 1:指導が不十分であった。	4	・毎月の出欠遅刻等の集計をもとに各担任および教務課との連携によって、該当生徒には指導を実施した。生徒も真摯に自らの怠学を自覚しており、仕事やアルバイトとの両立を図らせる指導の充実を目指している。 ・指導対象生徒についてはほぼ固定しており、家庭へこまめに連絡し、家庭と連携した支援に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・取組は評価できる。何か気になる事案に対しては、迅速にケース会議を開くなどの対応をしてほしい。 ・左の診断・分析欄にあるように「自己肯定感」を高めることに留意して生徒指導に取り組んでほしい。
	○スクールカウンセラー及び養護教諭等と連携した支援体制の充実	・サポートを要する生徒への対応を的確なものとする。また保護者との連絡を頻繁に行い、協力を密にする。	4:校外の専門機関とも連携がなされ状況が改善した。 3:校内における連携が深まり生徒への対応が奏功した。 2:生徒への対応が図られた。 1:生徒への対応が十分には図られず、保護者の協力も望めなかった。	3	・特別な配慮と指導支援が必要と判断した生徒については定期的に職員間および外部支援員(SCと新規依頼したSSW)を交えた報告会、ケース会議を設けてきた。試行錯誤を繰り返しながら、対応と指導をしており、生徒本人も理解の上、良好なサポート体制が保たれている。また、行政担当の各部署とも必要に応じて相談と協議を行っている。 ・今後の課題として、卒業後の本人の人生がより良いものとなるように、少しでも自己判断力や自己肯定感を持たせるような支援を継続していきたい。	
進路指導	○個々の生徒の進路支援の充実	・進路選択や決定において情報交換を定期的に行い、個々に応じた具体的な支援に繋げる。	4:ほとんどの生徒に対し、支援を行うことができた。 3:半数以上の生徒へは支援をすることができた。 2:情報交換に終わった。 1:適切な進路支援はできなかった。	4	・時間を決めて定期的に行うことはできなかったが、支援を求める生徒については、進路情報を適切に提供することができた。またそれによって個々の生徒が進路選択を行い進路決定へとつなげることができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・貴重な学生時代に資格を取れるよう指導していただきたい。 ・意欲の向上を図れたことは、大きな成果である。 ・実力以上の級に挑戦した生徒が多かったのであれば、来年度は適正となるように指導を徹底してほしい。
	・「総合的な学習の時間」や放課後を利用して、検定の合格を目指す。	4:生徒の70%以上が受検し、60%以上の合格を出した。 3:生徒の70%以上が受検し、合格率40%以上であった。 2:生徒の50%以上が受検した。 1:生徒の50%未満しか受検しなかった。	2	・37名中名31名が受検し、12名が合格した。昨年度の受検率が70.0%、今年度が83.8%で、昨年度より上回った。しかし合格率は57.1%から38.7%と下回った。受検率が上がった原因としては資格取得を各教科科目と連携して学習することで意欲が向上したことが考えられる。その反面、実力以上の級に挑戦した生徒が多く、残念な結果になった生徒が多かった。しかし、漢検2級に2名合格するなど、上位級に挑戦し合格できた生徒もいた。これは、生徒の大きな自信につながる成果だと考える。		
特別活動	○生徒会における自主的な企画と活動を促し、次代以降の人材育成についても、生徒自身の力で良い習慣が引き継がれるように支援	・新入生歓迎会、明日葉祭、体育大会、卒業生を送る会の4つの生徒会行事において、生徒自身の自己工夫を促し、生徒会役員のみならず全生徒を主体的に活動させるとともに失敗を恐れずに何かを試みようという意識を引き続き持たせる。	4:すべての行事で主体的かつ協動的に活動させることができた。 3:2つ以上の行事で主体的かつ協動的に活動させることができた。 2:1つ以上の行事で主体的かつ協動的に活動させることができた。 1:すべての行事で主体的かつ協動的に活動させることができなかった。	3	・生徒会組織は久しぶりに役員がすべてそらい1年生からも2名輩出しており、今後の活性化におおいに期待が持てると思っている。個々の行事についても、生徒自身の関わりが増え、教職員からのこまごまとした指示を待たずに企画運営ができるようになってきた。 ・今後は、クラス毎および学校全体を含め、個々の生徒のさらなる自覚と積極的な活動参加を促すための方策を考えていきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・協調性や社会性は社会に出て最も重要である。就職後、先輩社員との人間関係をはじめ、社内でのコミュニケーションをうまく図れるような力をつけてほしい。 ・活動に使える時間が限られているとは思いますが、生徒に自信を持たせるような支援をしていただきたい。
業務改善	組織的な取組	・アンケートや職員会議を利用して、校務について、教員全員で点検をし、改善を図る。	4:年間3回、学期ごとに点検し改善を図った。 3:年間2回、点検し改善を図った。 2:年間1回、点検し改善を図った。 1:教員全員による点検はできなかった。	3	・1・2学期末に教員全員にアンケートを実施し、翌学期初めの職員会議で協議した。プリントを活用して、生徒が授業へ取り組み易くすることや、各種会議の効率化(時間短縮)といった改善を図った。 ・また業務改善では、特別な配慮を必要とする生徒に対する指導支援において、生徒指導課、教育相談係の主導により、手作りの日記やパンフレットを活用した、従来よりきめ細かい指導が行われた。	
	○教員全員による業務内容の点検と改善	・定期的な職員室の書架や校内サーバ内の文書を整理し、業務の精選と効率化を図る。	4:学期に1回以上整理をした。 3:年間2回整理をした。 2:年間1回しか出来なかった。 1:1回も出来なかった。	4	・夏・冬の長期休業中と3学期の勤務時間前に、職員室の書架を清掃・整理した。また、サーバ内の文書についても協力を得て、バックアップと整理を行った。これらにより業務の見通しが得られ、業務の精選と効率化が図られただけでなく、業務の引継ぎ等をし易くなった。また職員室の棚の空きスペースが増加し、物理的に余裕が生まれ、作業がしやすくなった。	
	○職員室の情報の整理					

6 学校評価総括(取組の成果と課題)	
【成果】	<p>①校内や校外で授業参観を行うなど、理解しやすい授業、わかる授業のために研修や教材研究に努めた結果、授業アンケートでは全体として80%を上回る肯定的な評価を得ることができた。</p> <p>②分掌間の連携や保護者との連携を図りながら、生徒指導に取り組んだ結果、年度当初に比べて問題行動や指導事案が大幅に減った。また、新たな支援方法を開発したり、新規にSSWIに協力要請するなど、指導体制の幅が広がり、生徒との関わりがより多面的になった。</p> <p>③個々の生徒に応じた進路指導が行われ、卒業生は全員進路が保障された。</p>
【課題】	<p>①業務改善において、教員アンケートは実施したが、それが十分に活用されておらず、現状分析も不十分なままである。</p> <p>②資格取得の目標設定でミスマッチがあった。</p> <p>③評価基準の設定が適当でなく、それなりに成果が得られても達成度の数値として低くなる場合があった。</p> <p>④外部支援員との連携は適宜図られているが、養護教諭との連携はまだ十分とは言えず、改善の余地がある。</p>

7 次年度への改善策	
<p>①業務が固定化し、改善が難しい状況であるので、学校関係者評価でご指摘をいただいたように、十分な現状分析にまず取り組むことで、改善の糸口を探りたい。</p> <p>②資格取得について生徒との確認をより丁寧に行うことで、ミスマッチを減らしたい。ただし、生徒のやる気をそがないように十分配慮したい。</p> <p>③評価基準に当たっては、適正かつ客観的なものとなるように、担当者だけでなく広く意見を求めながら設定したい。</p> <p>④生徒指導や教育相談における養護教諭との連携は、勤務時間の問題など難しい点もあるが、定期的に情報交換の時間を設定するなど、より緊密な連携を図りたい。</p>	